

第12回 横浜



デザイン賞 2026 

受賞活動・受賞景観集



地域まちづくり部門

市民が自ら主体となって、創意工夫し、
地域まちづくりを推進している活動



まちなみ景観部門

地域の個性と魅力をつくりだしている
「まちなみ」や「建造物」の景観



横浜市

ごあいさつ

横浜は、港町ならではのウォーターフロントをはじめ、豊かな自然環境、歴史的な街並み、活気あふれる商店街など、多彩な魅力を有しています。また、市内での様々な市民活動や強い地域のつながりなど、横浜の“市民力”も誇るべき強みです。そしてこれらは市民・企業・団体の皆様によって、支えられています。

このたび「横浜・人・まち・デザイン賞」を受賞された皆様の取組は、様々な創意工夫や個性豊かなデザインなどにより、横浜のまちづくりや景観の新たな価値とより一層の魅力につながっています。横浜市は、引き続き、皆様と連携しながら、誰もが自分らしくいきいきと暮らすことのできる「住みたい・住み続けたいまち」や世界を魅了するグローバル都市の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

横浜の魅力・にぎわいを高めてくださっている受賞者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、皆様の今後益々の御活躍を心より祈念しております。



横浜市長
山中 竹春

横浜・人・まち・デザイン賞について

表彰目的

横浜市内での地域まちづくりに関して特に著しい功績のあった活動や、都市景観の創造や保全に寄与したまちなみを構成する建造物等を顕彰して、魅力あるまちづくりをより広く進めていくことを目的としています。

今回の募集状況

〓 募集期間 令和7年5月1日～6月30日 〓 募集結果 地域まちづくり部門：応募総数 39件（うち選考対象 30件）
まちなみ景観部門：応募総数 59件（うち選考対象 45件）

選考基準

地域まちづくり部門

横浜市内における、おおむね3年以上の取組実績がある地域まちづくり活動の主体である団体を対象としています。また、表彰対象の活動を支援した個人または団体も表彰します。

- 1) 地域の魅力向上や、課題を見出して解決につながっている活動
- 2) 熱意を持って主体的に取り組まれている活動
- 3) 多様な地域住民に開かれ参加・参画している活動
- 4) 活動の独創性、地域資源（人、空間など）を生かした活動
- 5) 継続性・発展性・波及効果が見られる活動

まちなみ景観部門

横浜市内の「まちなみ」や「建造物等」で、おおむね10年以内に新しく造られたものや、歴史的建造物等再生されたものを対象としています。

- 1) 地域の個性と魅力にあふれた新しい都市景観の創造に寄与しているもの
- 2) まちの活性化に寄与し、賑わいのある都市景観を形成しているもの
- 3) 歴史的なまちなみ、及び自然景観の保全に寄与し、又はそれらと調和を保っているもの
- 4) 横浜らしさの演出に寄与しているもの
- 5) 都市景観と環境や福祉への配慮などの先進的な取り組みが調和しているもの

各部会長講評

地域まちづくり部門

横浜市地域まちづくり推進委員会
表彰部会長 片岡 公一

第12回を迎えた本部門には、39件に及ぶ多様な応募をいただきました。今回は既存の枠組みに捉われない新たな主体や活動が目立ち、「地域まちづくり」の現代的な意義を改めて問い直す貴重な機会となりました。選出された9団体は、独自の切り口で地域の魅力や住民の主体性を引き出す工夫に溢れ、多くの示唆に富んでいます。この表彰は過去の功績を称えるだけでなく、その価値を社会へ広く共有し、次なる活動への道標となるものです。本賞が、横浜の未来を拓く新たな挑戦への力強いエールとなることを願っております。

まちなみ景観部門

横浜市都市美対策審議会
表彰広報部会長 三輪 律江

本賞まちなみ景観部門には59件もの応募があり、重複等を除いた45件が審査対象となりました。今回は商業施設やオフィスビル、リノベーションした民間施設や公園休憩所といった建物から、エリアを面的に捉えたものなど多様で、そのほとんどが他薦であったことは、市民の皆様が多くのご関心を寄せていただいていることの証であり、心より御礼申し上げます。選考にあたっては、書類を基に13件の現地視察を行い、その後各委員が推薦した11件を中心に、単体の表層的なデザインだけでなく、点から面へと拡がるまちへの波及、官民が市民と共に創り育てていくプロセスや事業スキーム等、横浜らしいまちなみ景観について多角的な議論を経て、最終的に7件を選出しました。今後も、横浜らしい共創・協働なまちなみ景観が生まれ育まれていくことを強く願っています。

全かなスリッパ卓球選手権大会

活動団体名 スリッパ卓球実行委員会

活動概要

神奈川県各地域にある商店街においてスリッパを使った卓球大会を開催、予選会を制した選手が頂上決戦で聖地和田町商店街に集結し、神奈川県のチャンピオンを決めます。スリッパ卓球という「ゆるいスポーツ」を通じて、商店街と地元企業が地域住民とつながる機会を創出するとともに、本来商店街が持っていた人と人の顔が見える関係を再構築しています。開催初年度からイベントのマニュアルを作成、全国で希望される商店街にも配布し、知名度を上げ全国で開催・発展できるよう、メディアへの積極的な働きかけも行ってきました。

表彰理由

保土ヶ谷区の和田町商店街から始まったスリッパ卓球選手権は、保土ヶ谷区の全商店街、横浜市内から神奈川県内へと活動を広げています。「スリッパ卓球」というゆるいスポーツに真剣に取り組み、地域商店街と地元企業や地域住民がつながる仕組みを作り上げました。スリッパがつなぐ地域と商店街の輪の広がりを期待しています。

活動場所 神奈川県内全6地域11商店街

活動団体の詳細はこちら

<https://www.slipper.yokohama/>

<https://www.facebook.com/hamanotoudai/>

ホームページ フェイスブック



▲全かなスリッパ卓球選手権大会の様子



▲試合風景



▲表彰式

活動を支援した個人または団体

- (一社)横浜建設業協会
- (一社)神奈川県建設業協会横浜支部
- (一社)神奈川県建設業協会
- 建設業労働災害防止協会神奈川支部横浜西分会
- 建設業労働災害防止協会神奈川支部
- (公財)横浜市スポーツ協会 ●(公財)神奈川県スポーツ協会
- 横浜市卓球協会 ●(一社)神奈川県卓球協会
- 保土ヶ谷区商店街連合会 ●(一社)横浜市商店街総連合会
- 神奈川県商店街振興組合連合会 ●(公社)商連かながわ
- NPO法人ハマのトウダイ ●チーム和田街 ●FM上星川
- NPO法人ぎんがむら ●相鉄ホールディングス株式会社

まちを楽しくするストリートファニチャーデザインコンペティション

活動団体名 ストリートファニチャーコンペ運営委員会

活動概要

横浜のまちをより魅力的にするため、2015年から開始された「ストリートファニチャーデザインコンペティション」は、国内外からまちを楽しくするファニチャーのデザインを募集し、優秀作品を実際に製作・設置する取り組みです。公開審査や体験型展示を通じて、市民が見て触れられる場を創出し、企業・行政・クリエイター・市民をつなぐ横浜発のデザイン文化を育てています。これまで応募は毎回100件を超え、協賛企業も100社以上に及びます。第7回では、2027年国際園芸博覧会に向け「花と緑」をテーマにコンペを実施しています。

表彰理由

「まちを楽しくする」をキーワードに行われるストリートファニチャーデザインコンペティションは、地域の団体とも連携し、その時々での社会的ニーズや地域の課題に即したテーマで実施されています。公開審査を経て、設置イベントで公共空間を彩るストリートファニチャーが、横浜のまちをより魅力的にすることを願っています。

活動場所

実作設置イベント開催場所
(グランモール公園、赤レンガ倉庫広場、
横浜市役所水辺プラザ、伊勢佐木商店街等)

活動団体の詳細はこちら

<https://streetfurniture.jp/>

https://www.instagram.com/streetfurniture_competition

https://x.com/sfdc_yokohama



▲作品展示の様子(横浜市役所水辺プラザ)



▲作品展示の様子(グランモール公園)



▲一次審査会



▲公開審査会

ホームページ



インスタグラム



X



横浜18区の人とまちがつながる TSUBAKI食堂18区井プロジェクト

活動団体名 株式会社よこはまグリーンピース

活動概要

横浜市庁舎内の飲食店「TSUBAKI食堂」を拠点に、毎月1区をテーマにした「18区井」を提供し、横浜18区の魅力を発信するプロジェクトです。地産地消を軸に、各区の食材や文化、人を紹介しながら、食育や学校との連携、交流イベントを実施しています。これまでに1万食以上を提供し、区民や生産者、企業とのつながりを生み出しています。今後は「横浜を地産地消の代表都市にする」というコンセプトのもと、消費者と生産者が近い横浜ならではのスタイルで、地産地消をテーマにしたコンテンツを展開する「横浜村」構想へと発展させ、食を通じた地域連携を目指します。

表彰理由

横浜の農産物の地産地消を通して、18区を横断する人のつながりを作っていくという取り組みは、都市農業が広がる中でとても意欲的で可能性を感じさせました。毎月の丁寧なその区らしい素材、レシピ、人の掘り起こしに頭が下がります。今後の「横浜村」の展開も大変興味深く期待しています。

活動場所

横浜市役所内の商業施設にある、横浜野菜や地産地消の魅力が体験できる飲食店「TSUBAKI食堂」を拠点に、横浜市全域

活動団体の詳細はこちら

<https://dokohoru.base.shop/>
https://www.instagram.com/tsubaki_shokudou
<https://www.facebook.com/tsubaki.ygc>



▲18区井ナイトフェスティバル



▲横浜18区井 磯子区



▲TSUBAKI食堂外観

活動を支援した個人または団体

- ノガン株式会社 ●横浜おいしぼエンジェル
- 有限会社シュービ
- 株式会社Woo-By.Style(ウッピースタイル)

◆支援内容

18区井のデザイン提案やイベント調整、情報発信の支援を行いました。横浜村実現への伴走支援にも貢献されています。

ホームページ インスタグラム フェイスブック



「みんなのリビング」を目指して

活動団体名 洋光台南第一住宅管理組合、洋光台四街区自治会

活動概要

団地中央に位置する集会所のリニューアルを行い、多世代交流を生み出す場の維持・運営を行っています。昼間は高齢者を中心とした健康体操やサークル活動、放課後は子ども達の集う場になることで、地域活動拠点として住民の交流と活動の活性化を実現。管理組合、自治会、老人会、住民有志から運営チームが組織され、柔軟で機動的な意思決定が可能となっており、集会所利用のサポート、イベントの企画・実施は住民有志のボランティアが担います。各自の創意工夫、スキル発揮が生きがいや楽しみにつながり、無理なく運営を継続できる体制を実現しています。

表彰理由

集会所の再整備から始まる住民自治の取り組みが、時間をかけた対話を重ねてしっかりと醸成され、「創造的・機動的に動ける自立・分散型の運営」を実現していることが、団地再生のロールモデルとして高く評価されました。住民の幸福度を住民自身で上げていける「みんなのリビング」です。

活動場所

磯子区洋光台南第一住宅管理事務所棟(四街区集会所)



▲記念の集合写真



▲みんなで楽しむワークショップ



▲音楽イベント

活動を支援した個人または団体

- ①株式会社都市環境研究所
- ②株式会社スタジオ・クハラ・ヤギ
- ③南洋光クラブ ④みどり同好会
- ⑤洋光台四街区ロボット愛護会 ⑥アンサンブル四街区

◆支援内容

①設計段階から利用法を検討し、新しい集会所運営を実現②住民ニーズを反映した設計・運営の支援③広報等でイベント参加とコミュニティ形成を促進④花壇整備などで環境美化と団地の魅力向上に貢献⑤効率的管理で良好な住環境づくりを支援⑥音楽イベント継続で文化活動を活性化させました。

竹山団地プロジェクト

活動団体名 神奈川県住宅供給公社、学校法人神奈川大学、NPO法人KUSC

活動概要

入居者の高齢化や健康指標の低下、コミュニティの希薄化等の課題に直面する竹山団地において、団地の開発者である神奈川県住宅供給公社と神奈川大学が連携協定を締結し開始した連携プロジェクトです。公社賃貸住宅上層階の空き住戸を同大学のサッカー部に賃貸し、全部員(60名超)が「寮的」な環境で共同生活を行いながら、商店街に整備した拠点等を活用し、団地・地域に様々な交流を生み出しています。「サッカーだけに捉われない幅広い視野をもった人間を育てたい」という構想のもと、自治会と連携しながら、学生の地域活動参画と共同生活を通じた総合教育が実践されています。

表彰理由

高齢化が進む団地を舞台に、大学・公社・NPO・自治会が有機的に連携し、「健康・つながり・まち」を同時に育てている点を高く評価しました。学生が積極的に地域に入り、日常の関係性を築いている点も特筆すべきで、本取組がモデルケースとなり、同様の活動が各地に広がっていくことを大いに期待します。受賞、誠にありがとうございます。

活動場所 緑区竹山団地

活動団体の詳細はこちら

<https://www.kanagawa-u.ac.jp/cooperation/project/takeyama/>

ホームページ



▲ 神奈川大学サッカー部出身者のリーグ加入内定の記者会見



▲ 健康ランチ(神大喫茶)



▲ 卒業生送別会で住民が学生のためにマスを釣ってきました

活動を支援した個人または団体

- 竹山連合自治会

◆ 支援内容

学生入居前の地域活動計画づくりから日常生活支援まで寄り添い、拠点運営のモニタリングや特別委員会による広報・助言も実施。新施設の認知向上と住民理解の促進、学生のモチベーション支援など、多方面でプロジェクトを支えました。

親子のたまり場「すくすくかめっ子」

活動団体名 特定非営利活動法人親がめ

活動概要

神奈川県で25年続く「親子のたまり場すくすくかめっ子」は、世代を超えた交流を生み、孤立しがちな子育て家庭の不安の軽減を目指し、地域ぐるみで子育てを支える居場所づくりを進めています。月1~2回、区内47か所で乳幼児と保護者が気軽に集える場を提供。運営はそれぞれの地域が担っています。活動は町内会館や公園など身近な場所で行われ、保育園や学校、行政、NPOとも連携しながら、利用者が支え手となる循環を生みだし、地域資源を活かした柔軟な運営を行っているのが特徴です。SNSでの情報発信も強化し、地域全体で子育てを見守る文化を生み出しています。

表彰理由

25年にわたる「町ぐるみでの子育て・子育て支援」は、地域に根付いた大切な文化として定着していると感じます。そこには、活動を継続し、地域に根づかせてきた多くの工夫や学びがありそうです。今後ますます重要となる子育て環境や地域のつながりづくりを通して、さらに豊かな地域文化が醸成されていくことを期待しています。

活動場所

神奈川県内47か所

活動団体の詳細はこちら

<https://kanaoyagame.com/>

ホームページ



▲ 各子かめ代表スタッフ集合写真



▲ 町内会館での様子



▲ 公園内のかめっ子でパラバルーンあそび

活動を支援した個人または団体

- ① NPO法人こどもと未来-おひさまでたよ-
- ② 社会福祉法人横浜市神奈川区社会福祉協議会
- ③ 毎日の生活研究所

◆ 支援内容

① 子育て支援の意義を学ぶ場づくりを通じて地域で支援者が成長し続ける基盤を形成② 事業を支える助成金制度の創設をはじめ、継続的な伴走③ ファシリテーターとして事業を深め、人材の裾野を広げる支援を行いました。

道の愛称ネクスト

活動団体名 南永田山王台連合町内会広報 道の愛称ネクスト

活動概要

南永田・山王台エリアで2019年に始まった「道の愛称ネクスト」は、地域の主要な道に愛称を付け、看板や広報誌を通じて歴史や文化を発信する取り組みです。安全で親しみやすいまちづくりを目指し、地域住民が主体となり、看板や子どもたちが作成したイラストプレートを設置。年4回発行する広報誌「道の愛称ネクスト」は3500部を配布し、歴史散歩や交流イベントも開催しています。地域の学校やケアプラザ、行政とも連携し、今後もウォーキングプログラムや防災啓発、歴史講座などを通じて、地域資源を活かした学びと交流を広げていきます。

表彰理由

地域の道に愛称をつけるという夢にあふれたプロジェクトです。地域の団体や住民の皆さんが協力して話し合い、プレートやパネルを作成・設置する活動を通して、まちの魅力が明確に発信され、地域の活力につながっています。広報誌によるPRや、まちあるきの実施によって、道への親しみを高める工夫もされており、今後の発展が大変楽しみです。

活動場所

南区南永田山王台連合町内会とその周辺



▲ イベント後の交流の様子



▲ 町歩きの様子



▲ 登り窯イベントの様子



◀ 道の愛称ネクスト 広報誌

ぶらっとkiricafe

活動団体名 NPO法人霧が丘ぶらっとほーむ

活動概要

少子高齢化に加え、インド国籍の方が800人以上住む霧が丘で活動していた3つの団体が、ヨコハマ市民まち普請事業にチャレンジし、ぶらっとkiricafeをオープン。街の「大変」が「楽しみ」に変わる連鎖が広がることを大切に、小さな困ったことを助け合い、学び合い、地域みんなで解決する仕組みをつくることで、人の温かさが感じられる地域づくりの実現を目指しています。子育て、シニア、国際交流の3つの部門を柱に様々な取組が行われ、世代や国籍を超え誰もがぶらっと立ち寄り、繋がりが持てるような居場所づくりを行っています。

表彰理由

誰かがお客さんになるのではなく、誰もが主体的な担い手として関わり、自然に交わっていく姿が印象的です。ヨコハマ市民まち普請事業の採択時以上に、活動を重ねる中で関係性が深まり、世代や国籍を越えた信頼が育まれている点を高く評価します。これからも活動がさらに魅力的に深化していくことを期待します。受賞、誠にありがとうございます。

活動場所 緑区霧が丘

活動団体の詳細はこちら

<https://www.kirigaokaplatform.com/lit.link/platform>

ホームページ



SNS



▲ カフェの利用風景



▲ 書道体験ワークショップ



▲ シニアウォーラーを探索イベント

活動を支援した個人または団体

- ①ぶらっとkiricafeボランティアスタッフ一同
- ②高橋 律夫
- ③一般社団法人青葉台工務店
- ④横浜市立義務教育学校霧が丘学園小学部元6年1組児童一同
- ⑤霧が丘地区老人クラブ連合会

◆支援内容

- ①安心できる場づくりと継続的な運営に貢献
- ②声かけや企画でシニアの参加を促し地域のつながりを強化
- ③カフェの施工と運営助言で、効率化や運営力アップに貢献
- ④多彩な企画を実施し、子どもや地域住民の参加を促進
- ⑤ボランティア募集を支援し、活動基盤の安定に貢献しました。

～まち×学生～キャンドルナイト

活動団体名 NPO法人まち×学生プロジェクトplus

活動概要

2018年開始のキャンドルナイトは「誰でも参加できるまちづくり」を掲げたまちの風物詩です。身近な資源である紙パック等をリサイクルし、家を模したホルダーを一人一人が制作します。出展や出資等で40を超える団体が協働し、コロナ禍でも分散開催等の工夫により、その灯りを絶やさずに継続してきました。3,000超のホルダーが集まる神奈川大学での一斉点灯と街中での点灯、多様な企画を通じ、子どもからお年寄りまでが地域活動の楽しさ・面白さに触れ、自らの手でまちを豊かにするという、主体的なまちづくりの契機を創出し続けています。

表彰理由

地域を支える大人と、このまちで学び暮らす若者との強い信頼関係を感じました。「誰でも活動に参加できるように」との想いを込めてキャンドルホルダーには牛乳パックが利用されています。約3000個の灯りとともに、賑わいのある六角橋地区に「まちかけ」という新たなサードプレイスが形成されつつある様子に期待しています。

活動場所 六角橋地区を中心とした
神奈川区全域

活動団体の詳細はこちら

<https://www.matikake.yokohama/candlelight>
https://www.instagram.com/candle_matikake/

ホームページ インスタグラム



▲キャンドルナイトのメンバーによる集合写真



▲キャンドルホルダー点灯



▲モニュメント

活動を支援した個人または団体

- ①六角橋自治連合会 ②学校法人神奈川大学
- ③Route7プロジェクト
- ④公益財団法人アイネット地域振興財団

◆支援内容、支援を受けたことによる効果

①住民参加を促す制作・広報を行い、活動を地域の恒例行事として定着化②公的な場の提供により信頼性が高まり、備品・学生確保による継続運営を支援③多様な団体をつなぐハブになり、活動の裾野拡大に貢献④イベントの開催支援とフィードバックにより、活動の改善を支援しました。

横浜シンフォステージ

概要

「横浜シンフォステージ」は、オフィス・ホテル・店舗等にて構成される2棟構成の大規模複合施設で、横浜駅とみなとみらい地区を繋ぐ歩行者ネットワークの軸線上に位置しています。「ランプリング(気ままなブラブラ歩き)」をテーマに、ペDESTリアンデッキに面して飲食店やオープンカフェなどを設けるとともに、多層的に性格の異なる広場を配置し、新たな出会い・にぎわい・イノベーションが交差する空間を形成しています。

講評

みなとみらい地区の主要な都市軸である「キング軸」と「グランモール軸」が交差する結節点に立地しており、横浜駅からつながる歩行者ネットワークのあらたな拠点として、ペDESTリアンデッキと多彩な表情をもつプラザ(広場)を舞台に、賑わいが連続する空間が生まれ出されています。みなとみらいの構想から60年を経て、計画の最終段階における重要なピースの完成を感じさせます。

所在地

西区
みなとみらい



- 事業者:
株式会社大林組
ヤマハ株式会社
京浜急行電鉄株式会社
日鉄興和不動産株式会社
みなとみらい53EAST合同会社
- 設計・施工者:
株式会社大林組



星天qlay

概要

「星天qlay」は、相鉄本線・星川駅～天王町駅間(全長1.4km)の連続立体交差事業により生まれた高架下空間に、ショップ・レストラン・シェアレジデンス・コワーキングスペース、保育施設など、5つのゾーンで構成される多彩な空間を展開しています。各建物の間には芝生広場やプロムナード状の通路などが組み込まれており、線路で分断されていた場所が、まちと人をつなぐ空間に生まれ変わりました。

講評

高架下空間を活用して小さなボリュームで分棟配置されたテナントが点在し、オープンスペースがゆるやかに全体をつなぐ、まさに「点と点がつながり星空のようにまちを描く」空間になっていると感じます。「ウォーカブルなまち」は今後のまちづくりのキーワードになると考えられ、1.4kmという全長を市民が歩く中で、たくさんのお会いや発見がある仕掛けづくりと、そこから生まれる共創を期待します。

所在地

保土ヶ谷区
星川、神戸町、天王町



- 事業者: 株式会社相鉄アーバンクリエイツ、株式会社相鉄ビルマネジメント、相鉄不動産株式会社、相模鉄道株式会社
- 企画: YADOKARI株式会社
- 設計者: 株式会社オンデザインパートナーズ、株式会社東急設計コンサルタント
- 外構デザイン: 株式会社スタジオ ゲンクマガイ、株式会社STUDIOSOW
- 施工者: 京王建設横浜株式会社、坪井工業株式会社 神奈川支店、東鉄工業株式会社 横浜支店



横浜BUNTAIとホテルコメント横浜関内

概要

「横浜BUNTAI」は、1963年から58年のあいだ「文体」の愛称で親しまれてきた横浜文化体育館が老朽化に伴い閉館し、2024年にPFI事業により生まれ変わりました。「ホテルコメント横浜関内」は、民間収益施設として横浜BUNTAIと一体整備され、外観の曲面は、横浜BUNTAIの「横浜の浜風にびく帆」をイメージした流線型のフォルムと連続したデザインとなっています。市民に親しまれてきた「文体」の歴史・文化を継承し、人・文化・まちをつなぐ交流拠点を創出しています。

講評

2つの建物が一体的な曲線をモチーフにデザインされており、それらが街並みに良いリズムを与えています。公共施設である横浜BUNTAIと民間施設であるホテルを一体的に整備する事業スキームが提案され、それをデザインに活用出来たことも要因であろう。

所在地

中区
不老町



【横浜BUNTAI】

- 事業者: 株式会社YOKOHAMA文体
- 設計者: 株式会社梓設計、株式会社アーキボックス
- 設計・施工者: 大成建設株式会社
- 施工者: 株式会社渡辺組

【ホテルコメント横浜関内】

- 事業者: スターツコーポレーション株式会社
- 設計者: スターツCAM株式会社 建設技術本部 一級建築士事務所
- 施工者: スターツCAM株式会社



Bosch Forum Tsuzuki (ボッシュフォーラム つづき)

概要

市有地を活用し、ボッシュ新本社と都筑区民文化センターが公民連携で一体整備されています。都筑区の歴史性と未来性を融合した建築デザインで緑と光を取り込む開放的な空間を創出しています。Bosch Forum Tsuzuki (BFT) はボッシュ (株) と都筑区が包括連携協定のもと運営し、両施設をつなぐ全天候型広場「プラッツ」はにぎわい創出や文化振興、地域活性化に資するイベントスペースとして、多様な活動の拠点となっています。

講評

緑あふれる港北ニュータウンの街並みに調和したデザインで、開館して1年、都筑区民に親しまれる拠点になっています。公共施設と企業本社ビルが広場でつながり、空間的な連動性が象徴するように、公共と民間、そして横浜北部の文化や福祉、まちづくりに関する市民との協働がさまざまな形で始まり、にぎわいを見せています。整備から活用まで、横浜型の公民連携をリードする好事例と言えます。

所在地

都筑区
中川中央



- 事業者: ボッシュ株式会社
- 基本構想: ジョーンズ ラング ラサール株式会社
- 設計・施工者: 株式会社大林組
(ボッシュ株式会社・全天候型広場)
株式会社竹中工務店
(都筑区民文化センター)

根岸森林公園トイレ 丘の小道

概要

「根岸森林公園トイレ 丘の小道」は、横浜市公共建築100周年事業の一環として実施された設計コンペで選出された計画です。根岸森林公園の特徴である、なだらかな丘の起伏をなぞるような屋根と、トイレと園路をなめらかにつなぐ草花ゾーンは、公園での気持ち良い散歩道の延長として位置づけられています。自然豊かな公園の環境と調和したトイレになっています。

講評

おおらかな起伏にとんだ公園に良くなじんだ建築のたたずまいが、来訪者に心地よい居場所と安心感を与えています。円弧を描く小道と屋根のまるみが建築としてシンクロし、トイレ建築として素敵な優しさを伝えています。トイレという機能を超えて人に優しい景観形成が秀逸であると考えます。

所在地

中区
根岸台



- 事業者: 横浜市
- 設計者: 甘粕建築設計事務所
nenlin
- 施工者: 株式会社タクト

ウェスティンホテル横浜 / アpartmentベイ横浜

概要

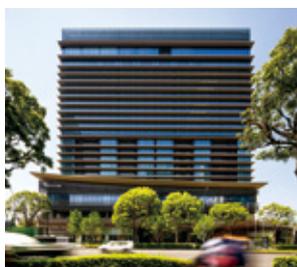
ライフスタイルホテル「ウェスティンホテル横浜」と長期滞在型ホテル「アpartmentベイ横浜」、2つのホテルで構成される建築です。建物が立地する、みなとみらい地区では、街区を超えて連続する緑やオープンスペースがまちの特徴となっており、本計画は、その魅力を最大限に活かすため、高層部のキャンチレバーにより、既存樹を保存し、豊かな緑によるコモンスペースを周囲の歩道と一体的に整備することで、街に開かれたホテルを具現化しています。

講評

高層階の深い軒庇が和を感じさせつつも現代的で印象的な景観をつくっています。地上レベルでは、いちよう通り側は既存樹を活用、みなとみらい大通り側では緑地を大胆に配置するとともに壁面をセットバックさせることで、前面道路の空間の質向上に寄与しています。

所在地

西区
みなとみらい



- 事業者: 積水ハウス株式会社
- 設計者: 株式会社日本設計
- 施工者: 株式会社竹中工務店

THE WHARF HOUSE YAMASHITA KOEN

概要

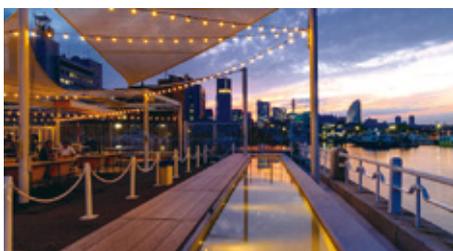
「THE WHARF HOUSE YAMASHITA KOEN」は、2023年にPark-PFI制度を活用し、山下公園のレストハウス内にあったコンビニエンスストアをカフェ・レストラン・ギフトショップに改装しています。Park-PFI制度を活用した、飲食機能を備えた公園施設としては横浜市初の事例となります。屋外には、海を見ながら入れる足湯テラスやBBQスペースが新たに併設されるなど、これまでの公園の概念にとられない施設となっています。

講評

古い建築をリノベーションによって、今日必要な空間に整えており、港に広がるオープンスペースをBBQコートとして、さらに先には足湯コーナーがあるなど、この建築が山下公園を訪れる目的地となるような価値を提供しています。ちょっとした工夫が、場所の魅力を増すアイデアは、新築でなくとも成しえるという勇氣さえ与えてくれます。

所在地

中区
山下町



- 事業者: 山下公園再生プロジェクトグループ
- 設計者: デザインレーベル株式会社
- 施工者: 株式会社エス・バイ・ティ

GREEN
×
EXPO
2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会
横浜・上瀬谷 2027.3.19—9.26



連絡先

 地域まちづくり部門

横浜市都市整備局地域まちづくり課
〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10
Tel:045-671-2696

電子メール:tb-dshou@city.yokohama.lg.jp

 まちなみ景観部門

横浜市都市整備局景観調整課
〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10
Tel:045-671-3470

横浜・人・まち・デザイン賞に
ついてはこちら 

